

第2回「歩いて楽しいまちなか戦略推進協議会」

議 事 録

(日 時) 平成18年9月12日(木) 10:00～12:00

(場 所) 京都市勧業館 第2展示場A面

(議事次第)

1. 第1回協議会における検討のまとめ
2. 幹事会における検討状況
3. 第2回協議会における検討テーマ
 - (1) 平成18年度交通実態調査及びアンケート調査の内容と実施時期
 - (2) 平成19年度交通社会実験の実施日程
 - (3) その他
 - ア 幹事会における検討事項について
 - イ 河原町三条交差点における歩行者空間の確保について
 - ウ 都心部における放置自転車等実態調査について
4. その他
 - (1) 三条小橋商店街(河原町通～三条大橋)における「歩行者天国」実験について
 - (2) 三条あかり景色の実施について

(資 料)

資料1 平成18年度交通実態調査・アンケート調査及び平成19年度交通社会実験(案)について

資料2 京都市市政総合アンケート調査(案)ほか

資料3 河原町三条交差点を歩車分離式信号に

資料4 都心部における放置自転車等実態調査について

参考資料1 第1回協議会議事録

参考資料2 歩いて楽しいまちなかニュース 第1号

参考資料3 三条小橋商店街における「歩行者天国」実験について

参考資料4 三条あかり景色リーフレット

「歩いて楽しいまちなか戦略推進協議会」委員名簿兼第2回協議会出席者名簿

「歩いて楽しいまちなか戦略推進協議会」第2回協議会座席表

「歩いて楽しいまちなか戦略推進協議会」設置要綱

(出席者名簿)

| 分野 | 所属・役職 | | 委員氏名 | 出 欠 (代理出席) | 随行等 | |
|-------------------|--|----------------------------|-----------------------|---|--|-----------------------|
| 学 歴 経 験 者 | 京都大学大学院工学研究科教授 (議長) | | 北村 隆一 | 出席 | | |
| | 立命館大学理工学部教授 (副議長) | | 塚口 博司 | 出席 | | |
| | 京都大学大学院経済学研究科教授 (副議長) | | 岡田 知弘 | 欠席 | | |
| | 京都大学大学院工学研究科助教授 | | 中川 大 | 出席 | | |
| 地 元 組 織 | 自 治 連 合 会 等 | 中 京 区 | 龍池学区会長 | 谷岡 美治 | 出席 | |
| | | | 初音学区会長 | 舟越 平 | 欠席 | |
| | | | 柳池学区会長 | 藤野 英雄 | 出席 | |
| | | | 鋼靴学区会長 | 大橋 堅造 | 欠席 | |
| | | | 明倫学区会長 | 吉田 季次郎 | 出席 | |
| | | 日影学区会長 | 澤田 實 | 欠席 | | |
| | | 生祥学区会長 | 山田 清三郎 | 欠席 | | |
| | | 立誠学区会長 | 山本 創三 | 出席 | | |
| | | 下 京 区 | 成徳学区会長 | 大森 重徳 | 出席 | |
| | | | 豊園学区会長 | 出島 昭男 | 出席 | |
| | 開智学区会長 | | 大森 延三九 | 出席 | | |
| | 永松学区会長 | | 八木 浄一 | 代理 副会長 井上 清次 | | |
| | 東山交通対策研究会 | | 東山区役所区民部長 | 池田 健 | 出席 | まちづくり推進課 担当係長 板垣 綾 |
| | 商 業 関 係 者 | 商 店 街 | 京都商店連盟会長 | 早瀬 謙男 | 出席 | 事務局次長 村上 尚登 |
| | | | 京都商店連盟中京東支部支部長 | 石野 猛 | 出席 | |
| | | | 河原町商店街振興組合理事長 | 堀 信一郎 | 出席 | 専務理事 諸井 誠一 |
| | | | 新京極商店街振興組合理事長 | 細野 修作 | 出席 | |
| | | | 寺町京極商店街振興組合理事長 | 浦田 和直 | 出席 | |
| | | | 京都錦市場商店街振興組合理事長 | 宇津 克美 | 出席 | |
| | | | 四条繁栄会商店街振興組合理事長 | 堀部 憲弘 | 出席 | |
| 三条小橋商店街振興組合理事長 | | | 大西 弘太郎 | 出席 | 副理事長 小森 一宏 | |
| パレット河原町商店街振興組合理事長 | | | 酒本 昌男 | 出席 | | |
| 河原町胡蝶師商店街振興組合理事長 | | | 西口 正博 | 出席 | | |
| 百 貨 店 | 株式会社高島屋京都店総務部副部長 | 中 治 彦 | 欠席 | | | |
| | 株式会社大丸京都店業務推進部マネジャー | 大橋 弘司 | 出席 | | | |
| 京 都 商 工 会 議 所 | 地域開発・都市整備委員長 | 平井 義久 | 代理 副委員長 坂野 政隆 | 産業振興部都市整備担当 課長 植村 章弘 | | |
| 関 係 団 体 | 財団法人祇園祭山鉦連合会理事長 | | 深見 茂 | 欠席 | | |
| | 歩いて暮らせるまちづくり推進会副代表 | | 西嶋 直和 | 出席 | | |
| | 京のアジェンダ21フォーラム 環境にやさしい交通体系の創出ワーキンググループコーディネーター | | 山田 肇博 | 出席 | 長谷川 吉典 井上 学 | |
| 駐 車 場 関 係 | 京都駐車協会理事 | | 津田 和雄 | 出席 | 常任理事 吉村 清三 会員 北原 洋司 | |
| | 全京都駐車場協会理事 | | 高橋 甫 | 出席 | | |
| 交 通 事 業 者 | 鉄 道 | 阪急電鉄株式会社都市交通事業本部都市交通計画部調査役 | 樋口 賢 | 代理 調査役 指江 卓哉 | 赤坂 慎太郎 | |
| | | 京阪電気鉄道株式会社鉄道企画部課長 | 前田 勝 | 出席 | 係長 道本 浩司 | |
| | | 京都市交通局高速鉄道部長 | 北條 和仁 | 出席 | | |
| | バ ス | 京阪バス株式会社取締役企画室部長 | 柴原 修一 | 出席 | | |
| | | 京都バス株式会社運輸部次長 | 高崎 努 | 欠席 | | |
| | 京都市交通局自動車部長 | 前田 文男 | 出席 | 営業課長 松浦 節吾 運輸課長 川原 博治 運輸課担当課長 山口 雅直 | | |
| | タ ク シ ー | 京都タクシー業務センター常任幹事 | 富田 博 | 出席 | | |
| ト ラ ッ ク | 社団法人京都府トラック協会専務理事 | 杉本 守 | 代理 総務課 課長 藤井 清博 | | | |
| 国 土 交 通 省 | 近畿地方整備局 | 企画部広域計画課長 | 山本 清二 | 代理 課長補佐 藤井 厚治 | | |
| | | 建設部都市整備課長 | 田雑 隆昌 | 出席 | | |
| | 近畿運輸局 | 京都国道事務所調査課長 | 中島 善長 | 出席 | | |
| | | 企画観光部交通企画課長 | 河田 敦弥 | 出席 | 専門官 柳井 達雄 | |
| 警 察 | 京都府警察本部交通部交通規制課長 | | 藤田 一広 | 出席 | 調査官 富永 啓生 課長補佐 山田 信之 都市交通部部長 山口 正則 | |
| | 京都府警察本部交通部駐車対策課長 | | 芝原 総 | 出席 | | |
| | 京都府警察本部中心繁華街総合対策推進室統括官 | | 植田 實 | 代理 調査官 竹内 毅明 | 係長 小野 慶秋 | |
| | 京都府五条警察署長 | | 兼丸 道男 | 代理 交通課長 三津田 季博 | | |
| | 京都府東山警察署長 | | 小谷 隆二 | 代理 交通給付係長 小野 季秋 | | |
| 京 都 市 | 絶 合 企 画 局 | 政策推進室企画部長 | 上飯屋 尚 | 出席 | | |
| | 環 境 局 | 地球環境政策部長 | 大森 善 | 出席 | | |
| | 文 化 市 民 局 | 市民生活部長 | 藤島 郁弘 | 出席 | | |
| | 産 業 観 光 局 | 商工部長 | 山添 洋司 | 出席 | | |
| | 都 市 計 画 局 | 都市企画部長 | 石辺 眞人 | 出席 | | |
| | | 交通政策室長 | 石崎 了 | 出席 | | |
| | 建 設 局 | 道路部長 | 山崎 栄治 | 出席 | 道路管理課長 高村 幸 道路維持課長 梶倉 治男 | |
| | 中 京 区 役 所 | 区民部長 | 佐伯 康介 | 出席 | | |
| | 下 京 区 役 所 | 区民部長 | 真下 弘三 | 出席 | | |
| | 交 通 局 | 企画総務部長 | 出口 博一 | 出席 | | |

(敬称略)

(議事内容)

1.開会

(司会：都市計画局交通政策室 北村計画推進課長)

定刻となりましたので、まだ何名かお揃いではございませんが、第2回の「歩いて楽しいまちなか戦略推進協議会」を開催いたします。

本日は大変お忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。まず、最初に榊本京都市長からのごあいさつを石崎交通政策推進室長から申し上げます。

2.市長挨拶

(都市計画局 石崎交通政策室長による代読)

おはようございます。第2回「歩いて楽しいまちなか戦略推進協議会」にご参加いただきましてありがとうございます。

本日の第2回協議会でもご議論いただく内容は、盛り沢山でございます。どうぞ様々なご意見をいただきまして、我々の参考にしたいと思いますし、事業そのものがうまく進みますようによろしくお願いいたします。

なお、司会のほうから挨拶がありましたように、本日、市長、副市長をはじめ都市計画局長を含みます京都市の幹部職員が京都市の市会本会議が開催されておりますことから、参加させていただくことができません。そのために、榊本市長から挨拶をことづかっておりますので、それを代読させていただきたいと存じます。失礼いたします。

皆様、本日はお忙しい中、第2回「歩いて楽しいまちなか戦略推進協議会」にご出席賜り、まことにありがとうございます。協議会の開催にあたりまして一言、挨拶申し上げます。

まず、本日は9月市会本会議のため、協議会への出席ができませんことを心からお詫び申し上げます。私自身も歩いて楽しいまちの実現に向け、皆様方の様々なご意見を直接お伺いしたいと考えておりましただけに、誠に残念に存じております。

また今年に入り、京都職員が市民の皆様に対し、信頼を大きく裏切る事件を相次いで起こしておりますことをこの場をお借りいたしまして、改めて深くおわび申し上げます。

さて、京都市の最重要施策といたしまして、京都の顔である歴史的都心地区を歩いて楽しいまち、すなわち自動車中心から歩行者と公共交通優先の空間とし、お住まいの皆様、お買物客や観光客の皆様が安心・安全に暮らし、まちの魅力が堪能できるまちづくりを目指して、5月に北村議長をはじめ、まちづくりに幅広い知見と関心をお持ちの皆様をお願いをし、協議会を立ち上げまして3ヶ月が経過いたしました。この間、塚口先生に幹事長の労をお取りいただき、幹事会を2回開催し、目指すまちの姿やそのための交通施策、来年度に予定しております交通社会実験等について、熱心なご議論をいただいていると逐次報告を受けており、皆様のご協力に改めて、感謝申し上げます。

申し上げるまでもなく、交通環境の改善には必要以上に自動車に依存する生活からの脱却はもとより放置自転車や走行マナーの問題、荷捌き車両やタクシーへの対応等々、解決が容易でない、テーマが山積しております。

私も各界の方々から本戦略に対しての誠に心強い応援や期待を頂戴しますと同時に、ご心配いただく声もお聞きしており、この戦略実現までの課題は重々承知いたしております。しかし目の前の課題に手をこまねいておれば必ず10年後、20年後に悔いる時がやって参ります。時間との戦いでございます。

京都市では景観、文化、観光を柱とする京都創世の取組、2008年サミットの誘致など、京都の歴史的、文化的魅力に磨きをかけ、それを内外に発信することに全力を傾注しております。その中心的取組の一つが、この歩いて楽しいまちなか戦略であり、まずはまちなかの交通問題を考える時に避けて通れない放置自転車問題を解決するために、都心部における駐車場の駐輪場の増設や撤去強化を目指します。都心部放置自転車等対策アクションプログラムの作成を進めております。

否定からは何も生まれませんが、前向きな積極的なご意見は皆が力を合わせれば、必ず実を結ぶものと確信しております。

どうか皆様には、この歴史的都心地区が50年後、100年後も京都市の顔として人々を魅了し続けるよう大所高所の視点でのご理解とご協力を重ねてお願いを申し上げ、あいさつとさせていただきます。平成18年9月12日 京都市長 梶本頼兼

代読で本当に失礼いたします。

3.資料確認

(説明：都市計画局交通政策室 北村計画推進課長)

4.委員交代確認

(説明：都市計画局交通政策室 北村計画推進課長)

- 国土交通省近畿地方整備局企画部広域計画課 栗田課長異動により山本課長が委員就任
- 株式会社高島屋京都店総務部 中副部長異動，後任委員は現在調整中のため未定

5.座長挨拶

(京都大学大学院工学研究科 北村 隆一教授)

少し声が出にくく，申し訳ございません。それでは議事次第に沿って，議事を進行いたします。

6.資料説明

(説明：都市計画局交通政策室 北村計画推進課長)

(議題1)

7.質疑応答

- 特になし

8.資料説明

(幹事長による説明：立命館大学理工学部 塚口 博司教授)

(議題2)

6月と8月に2回幹事会を開催し，各委員の方々から熱心なご議論をいただいた。様々な意見があったが，おおよその方向性として四条通ではトランジットモール化を目指すこと，三条通では歩行者自転車専用道路化を目指すこととなった。実施に向けてはいくつか検討事項があるが，この点については今年度9～10月に実施される交通実態調査及びアンケート調査の結果を元に，詳細な検討を行うことを考えている。具体的な検討内容や主な意見については，事務局より説明をお願いしたい。

(説明：都市計画局交通政策室 北村計画推進課長)

9.補足説明

(立命館大学理工学部 塚口 博司教授)

- ただ今，事務局より詳細なご説明をいただいたが，2，3点補足説明を申し上げる。
- 幹事会でのポイントは，資料－1 P. 11の確認事項に示されている a，b 2点で進むことで合意を得たことがある。ただし，主な意見にも示されているように，四条通や河原町通の一方通行化のご意見もあった。一方通行は道路のトラフィック機能を重視することにも繋がりがねない。そのため，歩い

て楽しいまちなかの実現という本戦略の観点からは、むしろトランジットモールが望ましいとのご理解をいただいた。

- また、バスの通行量が多すぎるとのご指摘もあった。トランジットモール化され、仮にバスとタクシーといった公共交通だけが通行した場合にどの程度の混雑状況になるかは、9～10月に実施される交通実態調査の結果を元に検討することを考える。その結果により、バスの運行本数見直し等を行うこともあるかもしれないが、市全体へ与える影響が大きいことが予想される。
- 歩いて楽しいまちなかを実現するためには、四条通や三条通だけでなく、周辺も含めて、一体的に考えるべきである。幹事会でも面的に取り組むことを前提に議論を行ってきた。現在、四条通と三条通を先行的に検討しているのは、面的な繋がりへの突破口として位置づけていることをご理解いただきたい。

10.資料説明

(説明：都市計画局交通政策室 北村計画推進課長)

(議題3ア, イ)

11.質疑応答

北村座長

- 本日の協議会の主要な検討テーマである交通実態調査及びアンケート調査について、ご議論いただきたい。

京都駐車協会

- 京都駐車協会への参画数は、これまで5～6社と少なかったが、本戦略の内容を周知する目的でこの度、「歩いて楽しいまちなか戦略に対する駐車問題対策協議会」を設立した。その結果、現在40社あまりが参画しており、今後も増加する見込みである。

津田委員

- 現段階では、取組内容が具体的にない所もあるが、今後の交通実態調査及びアンケート調査の実施と交通社会実験の実施については、断固反対の立場を取らせていただく。その理由として、マイカーの流入規制となる施策を行うのであれば、地区の活力・魅力低下に繋がるのが挙げられる。これを駐車場経営者の企業エゴとは受け取って欲しくない。どのような商売でも、やはりお客様あって成り立つものである。自動車で来れるからこそ、多くのお客様が来るのであろう。百貨店でも大規模な駐車場を設置している。歩いて来られるとなると、多くの荷物を持って移動することは大変である。

だからこそ、自動車で来ている人が多い。本戦略は京都有数の商業地である本地区の活力低下、売り上げ低下に繋がると考えている。

- 他地区の事例ではあるが、自家用車での来訪を抑制したことで、商業活動が低下し、商店街が衰退した例があると聞いている。本戦略は、駐車場経営者だけでなく、お住まいの方、経済活動をされている方に対して、マイナスの効果をもたらすものとする。

北村座長

- 他にどなたかご意見のある方はお願いしたい。

近畿地方整備局建政部

- 歩行者交通量については、交差点の横断交通量と四条通の南北横断交通量を調査するとのことであるが、歴史的都心地区における回遊状況は調査できないだろうか。

田雑委員

- また、四条通の地下道についても、歩行者数を調査できないか。

北村座長

- 事務局の意見をお聞かせ願いたい。

事務局

- ご指摘の調査内容については、事務局で再検討することとしたい。
- 先ほど京都駐車協会から懸念事項についてご発言いただいたが、考えている方向性は事務局と同じではないかと感じている。歴史的都心地区の魅力・活力が低下することは誰も望んでいない。市内有数の繁華街と京町家などの伝統的な町並みが共存するこの地区の特性を上手く活用し、安心安全で魅力溢れるまちとすることが目標である。商業面においても同様である。
- 歴史的都心地区における交通問題の一つに、通過交通が非常に多いという点が挙げられる。つまり、必ずしもこの地区を通る必要がない自動車が混入していると考えられる。
- 本戦略の交通社会実験等の取組に反対との意見を頂戴したが、現段階では取組内容が十分に具体化できていないため、ご心配をお掛けしていることと思われる。今後の協議会・幹事会での議論を通じて、ともに歴史的都心地区の活力と魅力向上を図っていきたい。

北村座長

- 先ほど田雑委員からご指摘があったが、確かに現在の調査項目を見ると、歩行者に関する調査が少し弱いかと感じている。予算制約もあるかと思われるが、過去の調査データを活用することも考慮した上で再検討をお願いしたい。
- 先ほど事務局からご発言があったが、地域の活性化は本日集まっている委員

全員に共通した思いであると考えてる。

- 津田委員からは、買い物で多くの荷物を持つことになるから、自動車で来る人が多いとのご指摘があったが、四条界限に訪れる買い物客は、そんなに大きな荷物を買うことは少ないのではないだろうか。
- 人が車を使うにはいくつかの理由がある。現在、四条界限に訪れる人の交通手段として、自動車の割合は決して多くないと思われるが、自動車で訪れる需要がなくなることはない。
- 敵対しているわけではないと考えているので、委員の方々には様々な意見を出していただきたい。

新京極商店街振興組合
細野委員

- 新京極商店街では放置自転車が問題となっている。自転車の市民権については、どのように考えれば良いだろうか。新京極商店街では自転車を利用する人が年々増えている。その内訳を見ると、地元住民及び市民が自転車を利用し、観光客は徒歩となっているようである。
- 将来的にどのような魅力を持ったまちづくりを目指すのか。今は交通が切り口となっているが、本戦略の対象範囲は広い。歩く人が、ある一部の区域だけに集中し、賑わう所、廃れる所が出てくるのではないか。そうならないように、地域の新たな核づくりも必要になってくるかと思われる。
- 四条通の地下道は出入り口にエスカレーターやエレベーターがなく、市民にとって使いづらいものとなっている。地下道について、通勤目的の人と買い物客を分けた施策は考えられるのか。

北村座長
事務局

- 事務局の意見をお聞かせ願いたい。
- 地下道の活用について、具体的なお發言をいただけたので、事務局で持ち帰り、検討させていただきたい。

細野委員

- 四条通の歩行者南北横断について、地下道の活用が考えられるのではないか。ただし、今の地下道は非常に使いづらく、市民生活の中で便利さが感じられない。

事務局

- 現在の地下道は、四条通東西方向の利用が多いと考えている。南北横断の有効活用に向けては、一定の施設整備も必要になるかと思われる。

北村座長

- 四条通の歩行者南北横断に答える一つの方策として、トランジットモール化

- が提案されていると理解している。エレベーター設置には土地取得も必要となるだろう。
- 細野委員 ● 財政面の制約もあるかと思われるが、現在あるものが十分に活用されていないのが現状ではないか。市民にだけ負担を強いることは問題である。
- 北村座長 ● 現在の地下道は薄暗い印象がある。使われなくなったには、それなりの理由があるのだろう。
- 細野委員 ● 現状のままで良いと考えていることが問題である。
- 阪急電鉄株式会社
樋口委員（代理） ● 昨年度の平日の平均乗降客数は、烏丸駅で約8万人、河原町駅で約7万人となっている。地下道についてもバリアフリー化事業を進めており、烏丸駅にもエレベーターが設置された状況にある。
- アンケート調査のうち、来街者ヒアリング調査に自動車の選択理由を聞く項目がある。選択肢の一つに「鉄道・バスの乗換が面倒だから」とある。まちに訪れる人にとっては、特に河原町駅での鉄道・バスの乗換が分かりにくいかと思われる。どのような誘導を行うことが望ましいのか。皆様からのご意見を踏まえ、改善していきたいと考えている。
- 北村座長 ● 交通手段間の乗換については、利便性が高く、分かりやすいものであることが大切であるが、すぐには改善できないのが現状である。
- 先ほど細野委員から自転車について、どのような位置付けとするのかについてご指摘があったが、事務局ではどのように考えているのか。
- 事務局 ● 放置自転車の実態については、5月と7月に実態調査を行い、その結果は幹事会でも報告させていただいた。本日の協議会資料にも、資料4としてご提示している。結果概要としては、平日・休日ともに昼間は約4,000台の放置台数が確認された。
- こうした状況に対して、市長からも指示を受け、放置自転車の撤去とあわせて駐輪場の確保も進めている。自転車は目的地近くまで行け便利であり、また環境にもやさしい乗り物である。歴史的都心地区に訪れる際に自転車を利用する人に対して、十分な駐輪スペースを確保できていないのが現状である。
- 京都市交通局自動車部
前田委員 ● 来年度実施予定である交通社会実験を通じて、どのようにして公共交通中心の交通体系を作っていくのかが大きな目的である。歴史的都心地区において

は、阪急・京阪・京都市地下鉄といった複数の鉄道事業者がある。現在、必ずしも使わなくてもいいマイカーで来ている人をどのようにして公共交通に転換させるかがポイントではないだろうか。そのために、どのような実験を行うのか、どのようにして人を呼び込むのかを考える必要があるだろう。

事務局

- アンケート調査の中で、自動車利用者に対して「どのような条件であれば公共交通への手段転換が出来るのか」について、もう少し詳細に聞いていただきたい。

北村座長

- 了解した。ご意見を踏まえ、再検討する。
- 自動車から公共交通への手段転換策については、実験と合わせてどのような施策が可能になるか、各地の事例等を参考にしながら検討していただきたい。そのためには、市民及び来街者が京都の公共交通をどのように考えているのか、何故自動車で来ているのかを把握しなければならない。今回のアンケート調査結果や既往調査結果を見ながら、考えていきたい。
- 手段転換を図る一番効果的な策は、公共交通のサービス水準を上げることであるが、これも一朝一夕には実現しない。

京阪電気鉄道株式会社

前田委員

- 四条通、歴史的都心地区は全国的に見ても都心の一等地と言える。マイカーでの来街者は歩行者や自転車、公共交通機関利用者などと比較して、この一番良い場所の面積を少人数で占有しているものと考えられ、そういう意味では自動車の優先順位は歩行者等より低いと考える方が自然であるとする。
- しかし、マイカーを完全排除することは現実的ではない。やはり、必ずしもマイカーで来る必要のない方について、公共交通利用や徒歩・自転車への転換を促進することが必要である。
- ここで、京都市と共に進めている京阪電鉄の取組をいくつか紹介させていただきたい。1点目は京都市及び大津市との協働の下で、京阪浜大津駅周辺の大津市営駐車場におけるパーク&ライドを平成16年度より継続実施している。これは京都にマイカーで来訪される方に途中の浜大津で電車に乗り換えていただき、都心への車の流入を少しでも減らすことが目的である。施策が徐々に浸透していることから、平成18年度における利用は、8月までの実績では17年度の約2～2.5倍のペースとなっている。参考までに平成1

7年度の総利用台数は年間約2,000台である。

- 2点目は、京阪四条駅横の地上部に180台程度の規模を持った有料駐輪場を設置する考えを持っている。現在、京都市との相談の上で、市営鴨東駐車場の緑地帯を駐輪場へ転用する計画を推進している。こちらは年内の供用開始を目指している。四条周辺の放置自転車台数を考えると、ある意味で「焼け石に水」程度の台数ではあるが、とりあえず有料駐輪場整備に向けての第一歩、周辺で駐車場等を運営されている方に同様な駐輪場整備への転換を考えてもらえるための参考事例になればと考えている。

- 今後も引き続き、少しずつでもこうした取組を進めていきたいと考えている。ご理解ご協力をお願いしたい。

三条小橋商店街振興組合
大西委員

- 先ほどの前田委員のご発言を受け、京阪三条駅にも是非駐輪場を設置していただきたい。三条北ビル近くにも多くの放置自転車が見られる。

- 津田委員は反対とおっしゃるかもしれないが、三条小橋商店街では今年12月に「サンコバ歩行者天国」の交通社会実験を実施する予定である。詳細は後ほどご報告させていただく。三条小橋商店街の中には駐車場はないため、駐車場経営者の方には大きな影響はないものと考えている。

京阪電気鉄道株式会社
前田委員

- 三条駅周辺についても、放置自転車の問題はあると認識している。問題解決に向けて、何とか一歩でも進めていきたいと考えているが、現段階では具体的な計画は整っていない。

北村座長

- 前向きな検討を是非お願いしたい。

京都市交通局高速鉄道部
北條委員

- 四条通は市バス利用者が多い。京都市内でバス乗降客数が最も多いのは京都駅前であるが、二番目は四条河原町であり、平日約26,000人の利用がある。このことから、市内各地から四条河原町周辺へお越しいただいていることが分かる。

- 鉄道からバスへの乗換が分かりにくい理由の一つに、バス停が分設されることがあるかと考える。四条河原町を例にすると、最も単純にすれば東西南北にそれぞれ1箇所ずつ、計4停留所とする案が考えられる。しかし、今あるバス停をその4箇所に集約するとなると、バス待ち客と通行者による歩道での混雑増加や、バス停車場所が集中することで周辺交通への影響が大き

京都大学大学院
中川委員

くなることが懸念される。もっと分かりやすく整理すべきとのご指摘をいただくこともあるが、非常に大きな課題である。

- 2年前に乗り継ぎシステムの整理（27号系統から203系統への無料乗り継ぎ可）を行った。アンケートによると、「便数が少なくても乗り継ぎ無しで目的地まで行ける方が良い」や「乗り継ぎがあっても、便数が多く選択できる方が良い」など利用者からの評価は分かれる結果となっている。
- 来年度の実験実施時に、四条通の歩行空間が広がることで、先に上がったバス停の分設の問題も解消できる可能性がある。是非、実験にあわせて前向きに考えていただきたい。
- 多くの市民に、この道路が良くなった、魅力が向上した、まちに来やすくなったと感じていただけるようにしなければならない。仮にトランジットモール化した際に、バス・タクシーを通行可能とするのであれば、バスとタクシーにおいては、その専用空間を最大限に活かすための工夫を講じることが問われるだろう。この点について、具体的にどう行っていくのか。検討していただけるのか否か。例えば、その方策の一つとして、乗り継ぎ利便性向上について改善を図ることも考えられるのではないか。
- むしろ問題であることは、この歴史的都心地区に訪れたいと思っているのに、車道・歩道ともに混雑しているため、訪れることができない人がいることではないか。京都を訪れる観光客の中には、歴史的都心地区に来ないで帰ってしまう人も多い。そうした人にも来てもらえるようなまちを作るべきである。
- 四条通での実験案を考えた場合、トランジットモール化による大きな意義としては歩行空間の拡大が挙げられる。現状では、四条通の歩道は安全快適に歩く場所がなく、混雑している。
- また、トランジットモール化した際においても、タクシーは公共交通であるため、通行できるのが当然とも考えられるが、対策を講じるべき大きな条件が一つある。それは、公共交通のドライバーとして、それ相応の運転教育を受け、公共交通のあり方・考え方に基づく運行をすべきであるという点である。現状では、タクシードライバーはこうした観点での教育を受けているのか疑問に思えるところがある。タクシーについても、乗り降り場所や待機場

所に関するルール遵守が必要であろう。

京都タクシー業務センター

富田委員

- 中川先生からのご指摘はもっともであり、日頃から痛感している点である。トランジットモール化した際には、タクシーベイの利用を徹底する、徹底できる考えである。現状では、タクシーは乗車ベイしか設けられておらず、降車の時は道路上で行っている。トランジットモール化する際には、降車専用ベイの設置も必要になるのではないかと。
- モラルの点については、今回の推進会議の提案を受け、京都府警の交通部長を議長とした「タクシー等駐停車適正化推進会議」を行っている。平成8年に設立されたものであり、以後、重点地区で街頭指導等も行っている。現在も毎週金曜日に京都駅や四条河原町で街頭指導を行っている。また、9月22日にはこの歴史的都心地区内（先斗町、四条烏丸など）において、指導員を配置し、駐停車の状況把握及び指導を行う予定である。
- 田の字地区の中は、修学旅行生によるタクシー利用も多い。最近では、細街路に入り込んで旅館の前まで迎えに行くタクシーもいる。本戦略を推進するに当たって、こうした旅館に対しては、一事業所としての対応を考えるのか、どのように考えるのか。

事務局

- 市バスの乗降客数を見ると、四条通に位置する四条烏丸・四条高倉・四条河原町の3停留所をあわせると、一日約5万人となる。市バス全体の一日の乗降客数が30万人であることを考えると、いかにこの地区での利用が多いこと、多くの方がこの地区を訪れていることがよく分かる。また、循環バスについては一日に2万人強が利用している。

北村座長

- 交通実態調査やアンケート調査の結果を踏まえ、更に多くの方に訪れていただけのように、前向きに検討していきたい。

12.資料説明

(議題3ウ)

- 自治連合会の委員の方々からはご意見ありませんでしょうか。なければ、次の議題に移りたいと思います。

(説明：京都府警察本部中心繁華街総合対策推進室 上田委員(代理))

※「都心部における放置自転車等実態調査について」は、特に資料説明なし

13.質疑応答

北村座長

- 歩車分離式信号のデメリットとしては、自動車の信号待ち時間が増えるとい

う理解で正しいか。自動車が右左折する際に歩行者と交錯することがなくなるため、歩行者との事故を防ぐことができ、流れもスムーズになるだろう

14.資料説明

(説明：三条小橋商店街振興組合 大西委員 (代理))

(議題4)

15.質疑応答

京都商店連盟

早瀬委員

- 特になし
- 本日の協議会で提示された内容については、概ね賛成である。立場上、反対の方もおられるし、課題も確かにある。それらを解決するのは委員の皆の叡智である。大改革を行おうとすると、必ず副作用が生じる。百点満点が望ましいが、現実にはなかなか難しい。百点を目指し、努力することが重要である。
- 個人的な考えとしては、トランジットモール化に伴うマイカーとタクシーの扱いについては、0か1しかないと思っている。つまり、現行のままか完全に抑制するかのどちらかである。個人的には両方とも0、つまり抑制すべきと考える。
- また、バスについても0とする案も考えられるが、高齢者など交通弱者の移動手段確保という面からは、一定数は必要となるだろう。ただし、現況の運行便数から半分ないしは何分の一かに減らす等、色々な計画を立てることが必要と思われる。
- 会議時間の関係上、大変申し訳ないが、意見をお聞きするだけに留めさせていただきたい。

北村座長

16.資料説明

(説明：都市計画局交通政策室 北村計画推進課長)

(議題4)

17.質疑応答

北村座長

- 特になし
- 委員の皆様においては、交通問題が中心になっている印象をお持ちの方もいらっしゃるかと思われるが、まちの魅力と交通環境の改善は一体的に考えるべきである。交通環境の改善を一つの手段、契機としてまちの魅力を高めていくことが必要であり、そのためには委員、各関係機関の皆様の協働が重要となる。
- 住みやすく、楽しいまちの実現に向けて、様々な提案をしていただきたい。

本日もタクシーやバス，四条通の歩行者南北横断，公共交通の乗り継ぎなど，色々な観点からご意見をいただきました。

事務局

- まちを魅力あるものとするために，全ての人が納得するような実験を行っていきたい。自動車で訪れる人においても，最後は駐車場に停めて，まちを歩いていただくこととなる。「歩いて楽しい」ことが基本であり，一番大事なことである。この点については合意していると考えている。
- アンケート調査などについては，本日いただいたご意見をできるだけ反映することとして，事務局で再検討させていただくことでご了承願いたい。
- 次回につきましては，本日いただきましてご意見と今秋行います調査・アンケートの結果を参考に，幹事会において，より深い議論をし，協議会で議論していただく内容がまとまる頃，概ね年度末に開催させていただきたいと考えております。本日は，長時間にわたり，活発な御議論をいただき，誠にありがとうございました。

以上

18.閉会